

第7回気象災害軽減イノベーションフォーラム

防災×極地

プロ登山家
High mountain
Antarctic
雪氷研究者

極めると見えてくる新たな防災の地平

View of the Sentinel Range in the Ellsworth Mountains, Antarctica
Credit: NASA/Michael Studinger

開催概要

「気象災害軽減イノベーションフォーラム」は、防災の取り組みに関わりの深い異分野の知見を導入し、逆に防災の技術や知見を異分野に波及させるために、連携や協働による実践の可能性や課題について議論する試みです。

「防災×○○」をテーマに異分野の多彩なゲスト講師を招き、様々な分野の実践実例やその背後にある手法、発想の源泉について、参加者を巻き込んだ対話型のレクチャーにより進行します。

人と技術、あるいは人とモノ、情報、地域…など、多様な関係のもとで「防災」をめぐる技術や情報を再構築し、災害に強い安心安全な社会を構築する可能性について考えます。

今回は「防災×極地」というテーマで極地を舞台に活動する、プロ登山家と雪氷研究者に講演いただきます。日常生活とかげ離れた極地という場所は、災害発生直後の地域と共通することも多々あります。そこでお二方の貴重な経験をお話いただくとともに、これからの防災・減災について皆さんとともに考えます。

講演者



竹内洋岳 (たけうち ひろたか)

プロ登山家。日本人初のヒマラヤ8000m峰14座完全登頂者。欧米のクライマーと少人数のチームを組み、酸素ボンベ、シェルパを使用せず、アルパインスタイルを積極的に取り入れた速攻登山と継続登山で、2012年に14座完全登頂を達成。



荒川逸人 (あらかわ はやと)

雪氷研究者。大学卒業後、建設コンサルタントで道路雪氷対策に従事。2015年に第57次日本南極地域観測隊に越冬隊員として参加。2018年より防災科学技術研究所雪氷防災研究センター主幹研究員。

講演者

全体スケジュール

- 17時45分 受付開始
- 18時00分 ~ 18時05分 趣旨説明・登壇者紹介
- 18時05分 ~ 19時05分 「8000m峰14座について」
竹内洋岳
- 19時10分 ~ 20時10分 「南極昭和基地の活動とブリーザード」
荒川逸人
- 20時10分 ~ 20時30分 ディスカッション
「極地から防災減災を考える」
- 20時30分 終了

その他

- ヒマラヤ山脈エベレスト山頂(8,848m)の石を展示します。
直接接触して極地に思いを馳せてください。
- 南極氷の展示をします。太古の空気がはじけ出す音をお楽しみください。

申し込み・お問合せ

参加をご希望の方は、下記の参加フォームの1~3を明記のうえ、2019年8月29日(木曜日)15時までにメールにてお申し込みください。なお、定員制(先着40名)です。お早めのお申し込みをお願いいたします。別途、受付登録メールを返信いたします。

送付先: [ihub-conso\(at\)bosai.go.jp](mailto:ihub-conso(at)bosai.go.jp)
※(at)は、@に置き換えてください。

<参加フォーム>

件名: 第7回気象災害軽減イノベーションフォーラム「防災×極地」参加

- 1 会員番号(コンソーシアム会員の方のみ)
- 2 所属
- 3 参加者氏名

お問合せTel.029-863-7242(担当:横山・中村)



2019年8月30日(金)



国立研究開発法人

防災科学技術研究所

National Research Institute for Earth Science and Disaster Resilience

主催: 気象災害軽減コンソーシアム

後援: 公益財団法人日本極地研究振興会

受付 17:45より

18:00-20:30

東京会議室 定員 40名

東京都港区西新橋2-3-1
マークライト虎ノ門6階602室



[会場案内]